

釧路湿原自然再生協議会
第 20 回 湿原再生小委員会
議事要旨

日時：平成 30 年 6 月 15 日（金）13:30～15:30

場所：釧路地方合同庁舎 7 階 共用第 5 会議室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 達古武湖自然再生事業について
 - 2) 平成 30 年度広里地区自然再生事業について
 - 3) 幌呂地区湿原再生事業等について
 - 4) その他
3. 閉会

(事務局)

開会、配布資料の確認等。

(委員長)

議事進行させていただく。よろしくお願ひいたします。

議事 1 達古武湖自然再生事業について事務局より説明をお願いする。

【議事 1. 達古武湖自然再生事業について】

(事務局)

資料に基づき内容説明。

(資料 4 達古武湖自然再生事業 事業の実施結果及び評価)

(資料 4-1 達古武湖自然再生事業実施計画 追記(案))

(資料 4-2 達古武湖自然再生事業 実施計画(追記版) 主な変更点)

(委員)

スライド 28 番 対策③栄養塩類流入抑制の粒度組成の記載について質問する。6 年が経過して砂分と粘土分が多くなったように見える。どのような事が起こっていると考えられるのか説明いただきたい。

(事務局)

各地点で概ね5%程度の砂分が入ってきているという状況である。この理由は直前にあった出水の影響が考えられる。

(委員)

これは一時的なものであると理解して良いか。

(事務局)

一時的なものである可能性があると考えて良い。

(委員)

以前の会議でも話したが、栄養塩類のみでなく底質の変化も植生に影響しているのではないか。現在無くなりつつある植物は粘土分ではなく、砂礫を好む可能性もある。植物に詳しい方に考察していただきたい。

(委員)

極端な例では植物はヘドロのようなものでも栄養分が入っていれば生える。砂礫でない方が底生の植物にとっては良い。むしろ光やヒシ等の植物に邪魔されることで、多様な植物が生育、発芽できないことが問題である。

(委員)

植生は植物同士のせめぎ合いのようなものである。競争になると負けるので条件が悪い場所に生育する種類もあるだろう。もしかしたら減ってしまった植物はこうした種類で、砂礫の環境で生き延びてきたのかもしれない。このような点からも調査を進めてほしい。

(委員長)

委員の意見を踏まえた上で今後の調査を進めていただきたい。他に何か意見はあるか。

(委員)

ヒシの刈取りを実施して光条件が改善されれば、アオコが発生する可能性は無いのか。そういうモニタリングを行うことを考えていただけないか。

(事務局)

大面積でのヒシ刈取りをした際のアオコ発生を懸念されているかと思う。過去5年間、刈取りをした際に同地点においてアオコの発生を確認するため、クロロフィルという定量指標を用いて調査を行ってきた。その結果、アオコ発生及びクロロフィルの増加は確認されて

いない。

(委員)

今後もクロロフィルの監視を続けるということか。

(事務局)

モニタリング地点を設定してクロロフィル等の調査を行う計画である。

【議事 2. 平成 30 年度広里地区自然再生事業について】

(事務局)

資料に基づき内容説明。

(資料 5 広里地区自然再生事業について)

次回の湿原再生小委員会で途中経過を報告したい。

(委員)

広里地区のこれまでの調査結果を、今後の釧路湿原全体の保全に役立てるという事はとても素晴らしい方向性である。

これまで釧路湿原におけるハンノキの拡大要因について様々な調査を行ってきたが、最大の特徴は大規模な野火である。今後万が一火災が発生した際にはそこでどういう事が起こるのかを、即座に調査できるよう準備しておくことを一言書き加える事はできないか。

(委員)

かつて釧路湿原南側の 2200hr が燃えた時に現状調査を実施したが空中写真が非常に有効なデータであった。火災が起きることを前提としなくとも釧路湿原全域の細かな空中写真を定期的に収集してほしい。

空中写真、デジタルデータの定期的な収集は、将来の調査に生かすための課題の一つとして、ご検討いただきたい。

(委員)

補足である。解像度は少々落ちるが人工衛星では解像度 3m 四方であれば毎日撮影ができている。アメリカのプラネット社の Dove という衛星を契約する事により解像度 3m、毎日のデータを撮影翌日に入手できる会社が帯広にある。アメリカのデジタルグローブ社の 17cm~25cm の超高精度解像度人工衛星を、酪農学園で研究のため無料で使用している。何らかの研究を酪農学園と一緒にやる必要があるが、それによつては過去・現在・将来まで無料で使える。また、空中写真は最近では民間企業 NTT が 5 年か 10 年おきに全域撮影を行っ

ている。

【議事 3. 幌呂地区湿原再生事業等について】

(事務局)

資料に基づき内容説明。

1. 幌呂地区湿原再生事業の概要)

地盤の切り下げの施工のみで植生調査等は未実施。次回の湿原再生小委員会で調査報告を行う。

2. 平成 28 年度工事の土砂置場の現況について

3. 降雨による釧路川の出水概要【速報版】)

(委員)

積雪量が例年と同様の場合、どの程度の増水になった等の推測は行ったか。

(事務局)

出水解析はそこまで行っていない。

(委員)

湿原の中心部に凍結した雪、凍結土が流入した場合の観測は行ったか。また、中心部への影響は把握しているか。

(事務局)

例年、茅沼地区・久著呂地区で夏季出水を対象にした土砂量を測定しているが、今回の出水の観測は未実施である。

(委員)

前回の湿原再生小委員会において、仮置きした土砂が以前農地だった場所の土なので、置土場からの栄養塩の流失等は無いかという意見が出ていた。他の観測データはあるか。

(事務局)

水温、pH、カルシウム、DO、TOC、マグネシウム、DO 飽和度、COD、SO₄、電気伝導度、ナトリウム、塩素、濁度、カリウム、硝酸を測定した。

(事務局)

地下水評価としてキーダイヤグラムに調査結果を示したが、カテゴリー I 浅層地下水に

多い型に属し、一般的な地下水であった。

(委員)

引き続き調査をお願いします。

(委員)

広里の調査成果でハンノキ林のコントロールについての話があった。既に釧路湿原の一部と釧路湿原以外でもこの手法が活用されている。ハンノキ林を制御してタンチョウの生息地を取り戻そうという取り組みが NGO で行われている事を報告する。

(事務局)

次回、第 21 回の湿原再生小委員会は 11 月から 12 月頃を予定している。

-----閉会